



日本で一番大きなコンピューター関連の組織に、情報サービス産業協会（JISA）というのがある。その主催で毎年秋に東京赤坂の全日空ホテルで盛大なコンベンションが開催され、私が責任者のひとりに任命されたので、塩田館長に三度目の講演依頼をお願いした。JISAは通産省と深い関係があるので、このビッグイベントには国会議員の先生方も挨拶に駆けつけてくる。

当時の国会議員情報連盟の会長というのが倉成正先生（元外務大臣）で、塩田館長のお弟子さんのひとりである。副会長が小淵恵三先生（元総理大臣）で早稲田大学時代に合気道をやっていた。共に故人とはなられたが、合気道を経験していたというのがご縁で、新年の賀詞交換会などでは私もお会いして合気道の話などをした。

講演は最初、塩田館長の独演の予定だったのだが、ふたりで膝をつきあわせて打合せをしている内に、柔道日本一から日本で最初のプロレスラーに転向した木村政彦先生や、参議院議員の小野清子先生、更には鉄のゲージツ家、篠原勝之氏（通称クマさん）を交えての座談会をやる事となってしまった。

更に四人で何を話したらよいのか分からないので、塩田館長から私が司会をやれというご下命がくださった。

タイトルは「経営に生きる合気道」と称し、塩田館長に講演をお願いする時にはすべてこのタイトルでいこうと以前から約束してあった。

講演会に先だって、ホテル内に畳敷きの舞台を作り、塩田館長の演武をいただいた。畳を50畳くらい必要だったので、日本橋三越デパートの合気道部にお願ひし、朝早くトラックで取りにいった。三越の合気道部は歴史が旧く、私も白帯から茶帯の頃、千田師範に連れられて、何度か一緒に稽古に参加したことがあり、馴染みがある。

受けは安藤先生（現、「龍」代表）が取り、リンダさんやマーク君なども演武してくれ、私は舞台の脇で、演武者の紹介や技の解説を受け持った。

演武の最後はいつもの館長演武で、その神技に会場の参加者は目を見張っていたが、途中で館長の入り身突きに勢いがつき、安藤先生が「うわっ！」と言った時に歯に当り、館長の指のあたりから血が滴った。

私はすっ飛んで行ってハンカチを取り出し、流れた血をぬぐったが、その時の血のついたハンカチを今でも持っている。武道マニアの間で高く売れるかもしれない。

演武終了間際には、会場の前列に座っていた小野先生や、クマさんたちに、例によって二ヶ条技がかけられ会場が賑わしくなった。

パネルディスカッションでは私の司会で進行したが、まったくのぶっつけ本番であった。実はこのイベントの一週間前に、墨田区にあるクマさんの事務所「クマ・ズ・ファクトリー」を下打合せのため訪問した。彼は大きな工場の中で溶接機械を片手に持ち、汗をかきながらゲージツを製作中であったが「そんなもの要らねえよ。なんにも無い方が面白いや。それにこのメンバーなら杉本さんがその場でどんな質問を投げても、なんとかしちまわぁな」と言った。確かにそうであった。

塩田館長は拓大時代の親友、木村先生を大いに持ち上げ、「木村、お前さんは“木村の前に木村なし、木村のあとに木村なし”なんて言われて確かに凄かったが、腕相撲ではわしに負けたよな」などと会場を笑わせ、木村先生も素直に「うん」とうなずいていたから、あの有名な挿話は本当なのだ。